

感性情報学

特集編集にあたって

編集チームリーダー 趙 晋輝

「大量生産・大量消費」に代わる新しいパラダイムとして「感性・感性価値」の重要性が指摘されるようになってきた。しかしながら、「感性」は、科学技術的には今なお解明されるべき課題の多いフロンティア領域であり、しかも、従来の科学技術的な方法論の再検討、文理融合的な考え方、ニーズ志向のアプローチが要求される分野でもある。

本特集では、このような背景から、感性に科学技術の面からアプローチするために、加藤俊一先生（中大）をゲストエディタとして迎え、哲学・デザイン・ビジネス分野の研究者に執筆陣に加わって頂き、感性のそもそも論、感性情報学の現状をサーベイするとともに、ニーズ志向のアプローチと産業への応用について展望する。

第1章「感性情報学の方法論」では、感性の概念の由来と定義から感性情報学の方法論の枠組みや、ロボティクスの観点からの工学的モデル化の考え方、次いで、感性モデル化の観点・手段として、多変量データ解析など数理科学的アプローチ、小標本理論などの統計学的アプローチ、無意識的・潜在的な認知過程をとらえる認知科学的アプローチ、更に、システム神経科学から分子生物学までの脳科学的アプローチを紹介して頂いた。

第2章「感性計測」では、人間の神経系の計測、心理的・身体的な状態の計測、更には、生活空間における計測の現状と課題を紹介して頂いた。眼球運動計測とfMRIを例に生体系の計測法、心理的事象の測定の妥当性や解析の信頼性を重視した心理的応答の計測法、自動車の運転を例とした動作と技能の計測、建築環境・住居

環境の立場から生活空間の計画と感性の計測を解説して頂いた。

第3章「感性情報処理」では、人間の五感及び時間感覚に関する情報処理について概観した。視覚では、快い映像コンテンツの提示環境、聴覚では、音楽の数学構造と感性との関係、触覚・力覚の人工的な生成と呈示、味覚と嗅覚と味・匂いを模倣したセンサの開発とその応用、更に時間感覚の感性情報処理を概説して頂いた。

第4章「感性データベース」では、蓄積された感性情報とその高度応用の試みとして、物理・生理・心理・認知各段階のモデル化による画像メディアの感性検索、計算論的音楽理論に基づくメロディのモーフィングとその応用、Webからの音響と映像の感性検索、ユーザコンシャスなデザイン情報の感性検索を解説して頂いた。

第5章「感性コミュニケーション」では、コミュニケーションにおける感性の役割として、コミュニケーションにおける合意形成、超臨場感コミュニケーション、ユビキタス情報環境における感性的コミュニケーションを紹介して頂いた。

第6章「感性の産業応用」では、産業界に導入されてきている感性関連技術の事例を紹介頂いた。工業製品の評価法と感性、ゲームなどの体感的インタラクティブシステムと感性、人とかわるロボットの感性化、建築と空間設計の感性化、自動車産業を例とした製造業の感性化、サービス産業の感性化、感性と価値創造、また、音楽療法と感性を概説して頂いた。

本特集号により多くの若い方が感性に興味を持ち、感性情報学の更なる発展につながることを切に願う。

最後に、御多忙にもかかわらず執筆に御協力頂いた執筆者の方々と本企画を進める上で御尽力頂いた加藤先生をはじめとする特集編集チーム並びに学会事務局の皆様深く感謝したい。

特集編集チーム	趙 晋輝	加藤 俊一	藤芳 明生	鎌部 浩	石井 孝明	加藤 浩介
	小西 啓治	小松 聡	一晃 一晁	周 暁	高橋 康博	中里 純二
	中村 一彦	堀 玄	松尾 直司	松崎 周一	村松 正吾	目黒 光彦